

高齢女性が人生を語ることの意味

－ 2名の高齢女性の事例を通じて －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
高取 歩

近年、高齢化が進む日本において、高齢者の心理的問題をどのように対処するかが問われ、高齢者の心を支えることの重要性が指摘されている。その結果、高齢者を対象にした様々な心理療法が行われ、高齢者の「語り」に注目した心理療法も、医療や福祉の現場でさかんに実践されている。しかし、語りの構造や高齢者が語ることそのものの意味については、まだ解明されていないことが多い。また、男性に比べて平均寿命が女性の方が長いこと、そのために女性が人生の最後を独りで歩むことが多いことなどの理由から、高齢者の問題は女性の問題であるとも言われている。さらに、現代の高齢女性は、大正・昭和・平成と女性の役割や女性に関する価値観などがめまぐるしく変化した時代を生きてきたことから、人生における葛藤がより大きいと考えられる。

そこで、本研究は、高齢女性2名を対象として人生についての印象的な出来事を語ってもらい、その語りから、高齢女性がどのように人生における問題と向き合い、受け入れているのか、高齢女性が人生を語ることにはどのような意味があるか、そして、そこから考えられる高齢女性が人生において経験するであろう問題にはどのようなものがあるのかということ进行分析し、考察することを目的として行った。

その結果、どのように人生の葛藤と折り合いをつけているのかということについては、2名の高齢女性の事例を通じて7つのパターンが見いだされた。すなわち、①他者と自己、現在と過去とを比較すること、②支えてくれた人たちを思い出すこと、③辛い経験の中のよいエピソードを語ること、④喪失体験を語ること、⑤過去の経験を現在につなげること、⑥他者の言葉を取り入れて語り直すことで自らを評価し、現状を受け入れること、⑦時代や歴史の流れから人生を語ること、である。また、高齢女性が人生を語ることの意味について見いだされた事柄は、①語ることで、「今思えば・・・」という形で新たな意味づけがなされ、それが人生の問題を受け入れるきっかけになっているということ、②他者や自己、過去と現在を比べること、そして、当時支えになってくれた人を思い出すことで、自分の幸せをかみしめることができること、③他者の言葉を引用したり、現在の状況を整理しながら語ることで、様々な視点から自らの人生を捉えることができること、の3つであった。さらに、高齢女性特有の問題については、①沢山の役割を強いられることが葛藤の原因となりうること、②現在の生活において、自分が担ってきた役割を家族にも求めること、また、そのことで新たな葛藤が生まれること、の2つが見いだされ、これは、先行研究で述べられていることを支持する結果であった。